

MARCH 2021  
no.110

# I'm home.

INTERVIEW

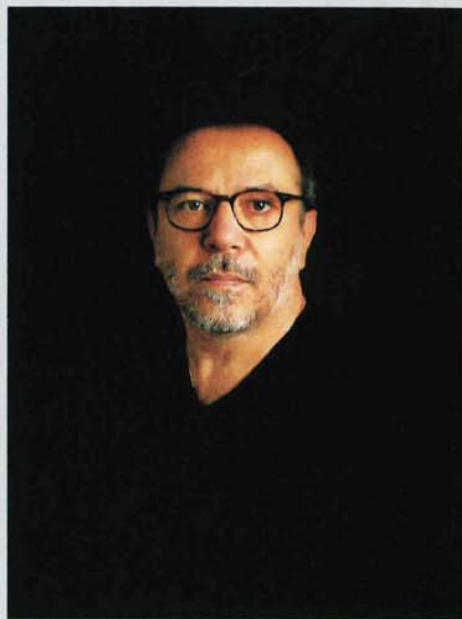
建築家・デザイナー  
が考える未来

## HOME WALL DECOR

壁を飾って住まいをギャラリーに

きなアートに囲まれた家  
を楽しむデコレーションアイテム  
望を満喫する住まい



Nicola Gallizia  
ニコラ・ガリツツィア

建築家、プロダクトデザイナー。1967年、イタリア・ミラノ生まれ。ミラノ工科大学卒業後、'90～'99年・デザイナー、Luca Medaのアシスタントとして、Molteni&CとDadaのクリエイションにかかわり、'99年から同ブランドの開発コンサルタントを務める。2003年・Nicola Gallizia Design設立。

“ 住まいが暮らしの中心的な存在に。  
決まりきったスタイルではない自分らしい住まいは  
プランニングや家具、オブジェによって現れる ”

「2020年は学ぶことや気づきが多くあった」と話すのは、イタリアの家具ブランド、Molteni&Cでイメージや製品開発のコンサルタントを務める、建築家のNicola Galliziaだ。彼はこれまで、ミラノを拠点にしながら世界中を駆け回り多忙を極めていたが、ロックダウンした期間はミラノの自宅で料理や読書、音楽鑑賞などをしながらその時間を満喫したという。「落ち着いて街や世界を見たとき、社会を構成する一人の人間としての自覚や、社会全体におけるそれぞれの責任と義務の関係性についても改めて考えさせられた」。そして、仕事はリモートが中心に。日本ではマンションのインテリアデザインを手掛けるプロジェクトが進行中だったため、クライアントとはリモートでの打ち合わせを余儀なくされたが、システムを構築したおかげで「上手くコミュニケーションがとれ、細部のデザインに至るまでこたわることができた」と振り返る。

空間をデザインする際大切にしているのは、自然光が入ること、そして温かみがあり心落ち着く場であること。それは住宅においても同じだ。さらに、コロナ禍では仕事や遊びなど人々がさまざまな行為を住まいの中で行うようになり、「住まいは暮らしの中心的な存在になった」と話す。より自分らしくいられる場所としての空間が求められ、決まりきったスタイルではなく個々に合った多様性が必要に。「自分らしさは、プランニングや家具、オブジェとなって現れるだろう」と、これからの暮らしを見つめている。



## グランドメゾン大塚THE APARTMENT / 積水ハウス

福岡で手掛けたマンションのプロジェクト。共用部分の仕上げ材や家具、アートだけでなく、一つひとつの住戸についてもGalliziaがインテリアデザインを手掛けた。細部に至るまで彼のデザインポリシーが行き届いている。2020年竣工

## AZUL / Molteni&C

内側に向かって折り曲げたヘッドボードのデザインが特徴のベッド。包み込まれる安心感をイメージしている。2020年発表(W1870mm×L2210mm×H1070mm) 743,000円～※写真の組み合わせの場合/モルテーニ東京



## DAMA / RIVIERE

トレーやボックスといったインテリアアクセサリーのコレクション。キャビネットづくりのノウハウを生かしたディテールデザインと、木やレザー、メタルなどラグジュアリーな素材使いが特徴だ。2020年発表。日本での取り扱いなし

## 505 / Molteni&C

堅牢性と美しさを両立した、Molteni&Cを代表するシステム収納の一つ。2020年はモジュールを拡張し、新たなカラーを追加した(W1445mm×D444mm×H1308mm)左1,138,000円 右1,032,000円※写真の組み合わせの場合/モルテーニ東京

取材協力/モルテーニ東京



### Questionnaire

#### Q. 2020年、一番感動したこと

A. 静かな環境で自然の美しさを感じられたこと。

#### Q. 今、一番気になっていること

A. 新しい人生の過ごし方。コロナ禍で注意深くならないことが増えた。私たち人間は同じ目標をもって、皆でこの状況を乗り越えなければならないと思う。

#### Q. 座右の銘

A. “コップの中には、まだ半分も入っている”。イタリアのことわざで、同じ状況でもポジティブな思考でいるという意味。

#### Q. 建築家・デザイナーになった理由

A. 綺麗なものが大好きだったから。子どものときから綺麗なものに囲まれて育ったため、美への愛情から建築家になったと思う。

#### Q. 仕事をするうえで大切にしていること

A. 自分のビジョンをリアルに表現すること。ビジョンを形にすること。

#### Q. 自宅の中で一番心が安らぐ時間・場所

A. 大きなソファ。静かに読書をしたり、夢をみたり(想像を膨らませたり、眠ったり)。

#### Q. もしもう一つ自邸を建てるなら

A. 今はミラノ中心地の自宅と、ミラノから1時間くらい離れた郊外に別荘があるが、時間をつくってこれまでできなかった自分のための自分らしい空間をつくりたい。